

## お手紙

～ことばに着目して豊かに読もう～

国語部

升村 誠志

場 所 2年南組教室

1. 日 時 平成19年11月30日(金) 第1時限(9:00～9:45)

2. 学年・組 第2学年南組(38名)

### 3. 研究課題

ひとり勉強をすることが、「深める」段階に実施する聞き合い活動において、友だちと響き合い、より豊かで確かな読みを実感することに有効か検証する。

### 4. 授業づくりの視点

#### (1) 教材分析

この作品は、かえるくんとがまくんの会話文を中心とした二人のやり取りを通して、二人の心情やその関わりが描かれている。また、地の文は少ないながらも、人物に寄り添った心情を的確に表している。そして、作者自身によって描かれた挿絵も人物の心情の変化を表すのに重要な役割を果たしている。

この『お手紙』は、かえるくん、がまくん、かたつむりくんといった子どもたちにとって大変親しみやすい登場人物のやり取りを中心にお話がすすんでいく。

子どもたちは、どちらかという、かえるくんに寄り添い、物語を読み進めるであろうが、やはり、それは、がまくんと関係の中で読み進めていくことになる。『スイミー』が主人公スイミー一人の心情を中心に読み進めていくのに対し、『お手紙』は、がまくんとかえるくん、二人の心情を読み取りながら読み進めていくことになる。この部分が大きな特徴であり、この教材の一番の価値であると考えられる。

特に会話文では、それぞれの登場人物がどんな気持ちで言葉を発しているのか、相手から言葉を聞いてどんな気持ちになっているのか考えながら、読み進めていくことができる。

また、会話文が多いということは、かえるくんとがまくん、かたつむりくん、地の文に役割を分担して、音読ができる。様々な登場人物になりきり音読をしていくことで、それぞれの心情に迫り、かなしくなったり、いらいらしたり、ドキドキしたり、うれしくなったり、やさしい気持ちになったりと、それぞれの登場人物に同化することができる。

さらに、この教材は、地の文や挿絵からも、かえるくん、がまくんの心情やその変化をより効果的にとらえることができる。とくに挿絵は、この教材の原作が絵本であることから、重要な役割を持っている。

例えば、最初の場面。お手紙を悲しい気分で待っているがまくんに、かえるくんがそのわけをたずねる。そして、わけを知ったかえるくんは、ふたりとも、かなしい気分で、げんかんの前にこしを下ろしている。がまくんの心を知ったかえるくんもなやみ、悲しい気分になっているのである。同じように、クライマックスの場面。お手紙が来ず、いらいらするがまくんとお手紙がまだ来ないか心配しているかえるくん。しかし、かえるくんは、がまくんの様子を見て、お手紙のことを打ち

明けてしまう。そして、げんかんに出て、お手紙の来るのを、とてもしあわせな気持ちで、まっている。ここでも、二人の離れている心が「かえるくんが出したお手紙」を通して、ともに幸せな気分になっていくのである。ともに「肩をならべて、玄関に腰を下ろして、ポストをながめながら、お手紙を待つ挿絵」が描かれており、心が寄り添っていくところも一緒であるが、二人の心情は最初の場面とクライマックスの場面では「悲しい」と「しあわせ」とで、全く逆になっている。

このように二人の関係を、場面を越えてとらえることで、より豊かで確かな読みを実感することのできる教材である。

## (2) 児童の実態

2年生の子どもらしくまだまだ先生に自分の話を聞いてほしい子、話をするだけで満足してしまう子どもが多くいる。

聞くことについては、国語の時間を中心に、他の教科や朝の会等の時間にも「何かをしながら聞かない」「しっかり話す相手のほうを見る」「話し手の内容に反応する」ことを指導している。徐々に集中できる時間は長くなっているように感じるが、まだまだ話に集中できない子がいる。

話すことについては、話したい思いが強くなる子どもは多くいるが語彙力や文法力が乏しいため、上手に伝えることができていない。書くことにも、つながってくるが、「〇〇だと思う。なぜなら、～だからです。」「〇点話をします。」「はじめは、～。次に～。さいごに～。」など話し方の指導をしている。また、話したことについて、文法的に良かったところ、詳しく話しているところ等、何がよかったか交流し、よりよい話し方につなげるように指導している。

書くことについては、「分かったこと」「思ったこと」を「詳しく」「順序良く」書くこと。また、話すことと同様に、文をつなげる言葉、自分の表現をくわしく、おもしろく(比喩・擬音等)している言葉を使うよう指導している。しかし、すでに個人差が大きいのも事実である。特に書けない児童には、ひとり勉強の際、個別に指導している。

読むこと(読解)については、とびらの詩や「ふきのとう」では、教師からある課題に沿って、自分の思いやイメージを書いたり、絵に描いたり、発表したり、音読したりしてきた。スイミーの学習では、より一人で読み解く力をつけるため、「ひとり勉強」の時間を少しずつとっていき、学習の仕方や、言葉に着目して読み深める方法を学習した。その結果、ひとり一人がスイミーの心情を言葉に着目し、考えることができた。

しかし、話す・聞く・読み取る活動の中心となる聞き合い活動において、ひとり勉強で持った考えを活かしたかどうか、より自分の考えを確かめ豊かなものにできたかについては、まだまだ自分の考えを述べるだけであったり、友だちの意見と比べたりすることができていない。友だちの意見を聞き、自分の考えをより確かにしたり、より深い読みを導き出すには至っていない。

## (3) 指導にあたって

2年生の子どもたちにとって「物語を読む」ときの視点は、書かれている文章、挿絵を根拠にして、登場人物の心情や情景を想像していくなかで、登場人物に同化し、物語を読み進めていくことだと考える。『スイミー』では、子どもたちは主人公スイミーに寄り添い、同化し、物語を読み進めた。『お手紙』では、かえるくんとがまくんの二人が主人公になる。この二人の関係を、会話文、地の文、挿絵の教材全体で捉えさせ、読み進めていきたい。

会話文では、その会話の裏にある二人の心情を想像したり、地の文では、かえるくんやがまくんの様子に着目し、より心情を深め、確かなものにしたたり、そして、挿絵からは二人の様子を想像することをはじめとし、場面ごとの違いまで想像させたい。

「ひとり勉強」についてであるが、まずは自分の考えを持つことが、聞き合い活動に前向きに取り組むことになると考える。また、自分の考えを整理することで、より友だちの考えと比べたりすることができ、自分の考えをより深化させることができると考える。『スイミー』で取り組み始めたひとり勉強であるので、スイミーの学習と同様に、言葉や挿絵に着目して、分かったことや考えたことを書かせていく。絵を写し、ふきだしを書く。考えのもとになった文章に線を引く。それを

思いとともにノートに書く。ここにこのように書いているから、こう考えたなど自由に書く等、子どもたちが取り組みやすいひとり勉強の仕方を指導していく。

そして、ひとり勉強をもとに、それぞれの場面で聞きたいことを交流させたい。自分の思いや考えは子どもたちひとり一人差があれ、持っている状態になっている。そのことを生かして、自分の考えをみんなの前で話すことや友だちの意見を聞くことが楽しいこと、そして、自分の読解に役に立っていくことに気づかせていきたい。

## 5. 単元目標

- すすんで音読やひとり勉強、聞き合い活動に取り組み、「かえるくん」や「がまくん」の心情、二人の心のふれあいを考えることができる。(関心・意欲・態度)
- 「かえるくん」や「がまくん」の心情を、書かれている言葉や文章、挿絵をもとに豊かに想像しながら読解したり、音読の工夫することができる。(読むこと)
- 場面ごとに「かえるくん」や「がまくん」の心情や自分の考えを、書かれている言葉や文章、挿絵をもとにし、書き表すことができる。(書くこと)
- 読み取ったことについて、自分の考えを友だちに話すことができる。また、友だちの考えを聞き、自分の考えをより深めることができる。(話すこと・聞くこと)

## 6. 指導計画 (全14時間)

- 第1次 『お手紙』の全文を読み、学習の構えを作る (3時間)
  - ・範読を聞く、全文通読、意味調べ、学習のめあてを持つ、自分がおもしろいと思ったところやくわしく読んでみたいところを書き紹介する
- 第2次 『お手紙』の場面ごとに、ひとり勉強と聞き合い活動し、音読に表現する (6時間)
  - ・かなしい気分、げんかんの前にこし下ろしているがまくん、かえるくんの心情を読み取る
  - ・大いそぎで家へ帰り、お手紙を書くかえるくんの心情、かたつむりくんにお手紙を渡すかえるくんの心情、もう一度がまくんの家に行くかえるくんの心情を読み取る
  - ・ベッドでお昼ねをしているがまくんとお手紙を待つかえるくんの心情を読み取る
  - ・お手紙を出したことを告白するかえるくとそれを聞いたがまくんの心情を読み取る
  - ・げんかんに出て、しあわせな気持ちで、お手紙が来るのをまっているがまくんとかえるくんの心情を読み取る (本時)
  - ・四日もお手紙が来るのを待っているがまくんとかえるくんの心情を読み取る
- 第3次 『お手紙』の学習を振り返ろう (3時間)
  - ・かえるくんとがまくんの人柄について考える
  - ・音読発表会をする
  - ・この教材で学習してきたことを最後の感想として書く
- 第4次 かえるくんが出てくるお話やお手紙が出てくるお話を聞こう (2時間)
  - ・「ふたりはともだち」シリーズのお話、『てがみをください』(やましたはるお作)のお話を聞き、感想の交流する

## 7. 本時について

### (1) 目標

- ・手紙の中の二つの『親友』という言葉比べて読むことで、かえるくんのお手紙の良さに気づく

ことができる。

- ・第1場面と第4場面の挿絵や言葉を比べて読むことで、がまくんやかえるくんの心情の変化を読み取ることができる。

## (2) 展開

	児童の学習活動と予想される反応	指導上の留意点	評価規準
かまえる	1. 4の場面の音読をし、前時の学習を想起する。 ・かえるくんは、がまくんのことを思ってお手紙を出したこと打ち明けた。 ・がまくんはびっくりした気持ち。どうしてという気持ち。 2. 本時の学習課題を知る	○前時までの学習を振り返り、がまくん、かえるくんの心情を考えた読み方を意識させる。	めあてを持って音読に取り組んでいる。 積極的に前時を振り返り発表している。
のぞむ	玄関にすわってお手紙を待っているがまくん、かえるくんについて、考えよう		
ひらく	3-1. かえるくんのお手紙について考える。 「どうしていいお手紙なんだろう」 ○ひとり勉強に取り組む ○聞き合い活動をする ・かえるくんは、がまくんが親友であることを嬉しいと書いてあるから ・かえるくんは、がまくんの親友って書いてあるから ・その二つのことが分かって、がまくんは、いいお手紙だと言った。	○どうしていいお手紙なのか(二つの『親友』について等)考えさせる。 ○机間巡視をし、子どもたちに書き方の指導をするとともに、子どもたちの考えを把握する。 ○児童の考えを整理し、板書する。 ○友だちの考えにつけたしたり、友だちの意見を意識させる。	本時の課題を知り、積極的に考えようとしている。 ひとり勉強を積極的に取り組んでいる。 自分の意見を分かりやすく述べている。 友だちの意見と比較し聞いている。 友だちの意見を聞き、より豊かに想像し、考えを深めている。
ふかめる	3-2. 玄関にすわってお手紙を待つかえるくん、がまくんについて考える。 「二人はどんなことを考えているかな」 ・がまくん：早くお手紙が来ないかな。 ・かえるくん：がまくんがうれしくなってほくもうれしい。 ・最初がまくんは、悲しかった。 ・最初かえるくんは、悲しんでいるがまくんを見て悲しかった。 ・最初は、悲しいのが一緒。ここは幸せなのが一緒。	○1の場面と比べさせ、同じところ、違うところを意識させ、かえるくんやがまくんの心情の変化を明確にさせる。	
ふりかえる	4. 4の場面の音読をし、本時の振り返りをする ○感想を書き、発表する	○最初の音読との違いを意識させる ○共同学習をしたことで、読みが深まったことを意識させる投げかけをする。	学習したことを整理し発表できることができる。

参考文献・資料1)『子どもが生きているか』(今井鑑三遺稿集編集委員会, H9)

2)『一人読み・話し合いで「読みの力」を育てる』(藤田伸一, 2006)